

キノコによる食中毒

キノコによる食中毒は、件数や患者数は比較的少ないものの、症状が重篤となることから決して無視することはできない。平成24年のキノコによる食中毒は、全国で57件発生しており、都道府県別の発生状況は、山形県14件、富山県5件、茨城県及び新潟県が4件の順であった。幸い都内の発生はなかったが、近年の山登りやトレッキングなどのブームにより、野生のキノコを目にする機会が増えていると思われる。キノコ食中毒は、個人の不十分な知識に頼ってキノコを採取し、自宅で調理・喫食し発症するケースが非常に多くみられることから、これを防止するため、野生キノコ採取に係るリスクの普及啓発が重要となる。

そこで今回、記録が残っている1952年から2012年までの過去61年間における東京都のキノコによる食中毒について、疑いも含めた掘り起こしを行い、その発生状況や動向を探ることで、今後の普及啓発の参考とする。

1 全国のキノコによる食中毒発生状況

最近のキノコによる食中毒発生状況を確認するため、全国における過去5年間のキノコによる食中毒発生状況を図1、図2及び図3に示した。図1によると、過去5年間では年ごとに発生件数に若干のバラツキがみられ、5年間の平均発生件数は58件、患者数は169人（小数点以下四捨五入）1件当たりの患者数は平均2.9人であった。2010年は事件数が91件と5年間では最大件数であったが、その原因は明確ではない。しかし、年による発生件数のバラツキの要因としては、野生キノコの発生量は気象条件やキノコの種類等により左右されるといわれており、その年の発生量に比例したことが考えられる。

また、同じく全国の過去5年間におけるキノコ食中毒月別発生状況（図2参照）によると、6月から11月にかけて食中毒事件が発生しており、10月にピークが見られた。6月頃から夏に生えるキノコによる食中毒事件が発生し、一般的な野生キノコの発生時期である9月末から10月にかけてキノコ食中毒も多く発生することが確認できた。このことから、普及啓発のタイミングは、9月上旬が効果的であるといえる。

次に過去約11年間におけるキノコ食中毒種類別発生件数（図3参照）を確認すると、ツキヨタケとクサウラベニタケで全体の半数以上を占めており、カキシメジ、ドクササコ、テングタケが次に続く。このうち、6月や7月に発生している事件のキノコの種類は、ヒカゲシビレタケ、オオシロカラカサタケ（その他に含む）など初夏に生えるキノコが多く、キノコ食中毒の半数を占めるツキヨタケやクサウラベニタケは、9月から10月に集中している。

また、ニセクロハツとドクツルタケによる食中毒で、死者がそれぞれ4名、3名発生した。ニセクロハツは、8月下旬から9月上旬にかけて九州や中部地方で死亡事例が発生した。ニセクロハツは、夏秋頃に、シイ、アラカシなどの常緑広葉樹林内に群生～単生し、分布は関東以西に多い。一方ドクツルタケは、7、10、11月に関東及び東北方面にて死亡事例が発生した。ドクツルタケは、夏から秋にかけて、針葉、広葉樹林ともに発生するため、全国的に分布しているキノコである。

キノコ食中毒は、山岳地帯での発生が多いとされているが、最近では日帰り遠出のキノコ狩りが可能となり、比較的山林が少ないとされる都心部においても、複数件発生している。次は東京都におけるキノコ食中毒の発生状況についてみていきたい。

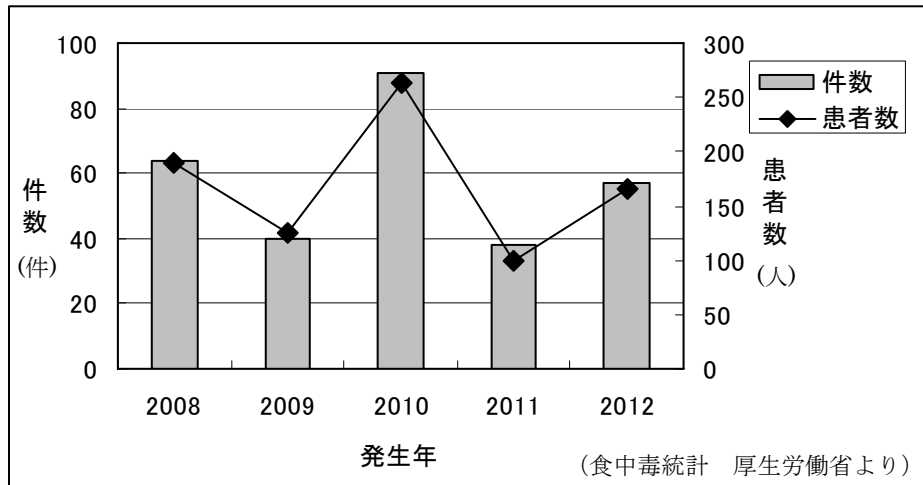


図1 全国のキノコによる食中毒発生状況 (過去5年間)

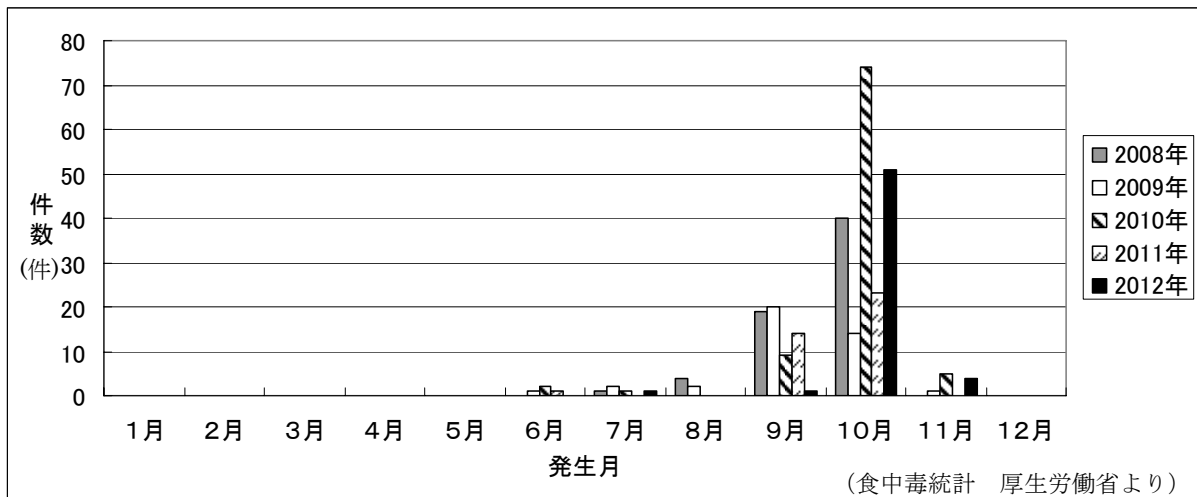


図2 全国のキノコ食中毒月別発生状況 (過去5年間)

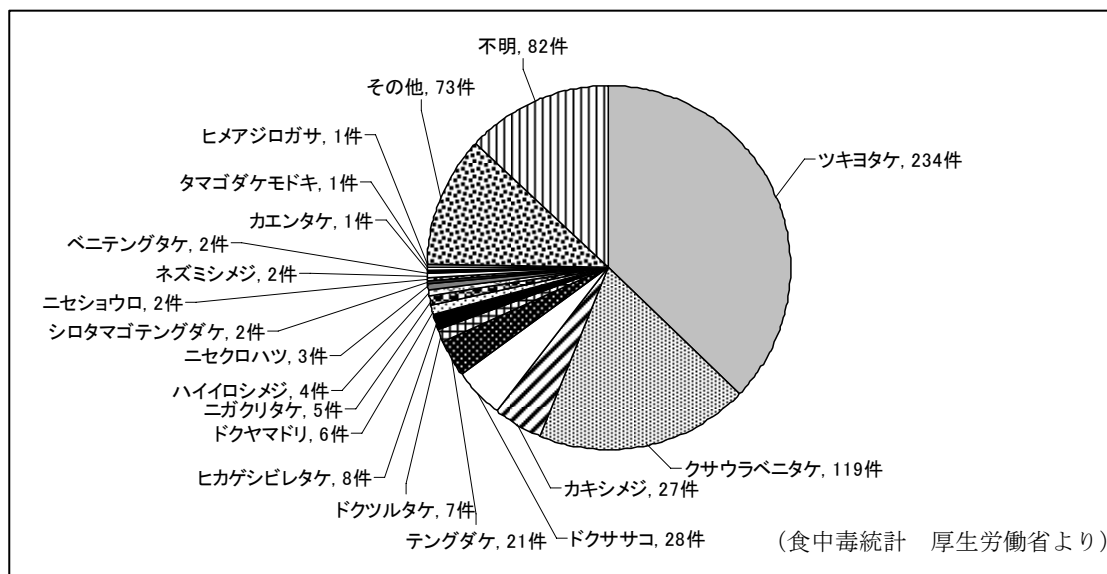


図3 全国におけるキノコ食中毒種類別発生件数 (平成2002年～2012年)

2 東京都のキノコによる食中毒発生状況

都内における 1952 年から 2012 年までのキノコ食中毒事件（疑いを含む）の一覧を、表 1（p153）のとおりまとめた。過去 61 年間に都内で起きたキノコ食中毒事件は計 76 件、患者数は計 466 名、うち死者が 1 名であった。図 4 によると、全体として徐々にキノコ食中毒は減少傾向にあり、1999 年以降は年に 0 件又は 1 件の発生件数で推移している。年次により発生状況にバラツキが見られ、1975 年に 8 件のキノコ食中毒が発生しているが、10 件以上発生した年はない。キノコ食中毒が減少傾向にある要因としては、食生活の変化、都市開発等によるキノコ自体の発生量の低下などの時代背景、キノコ専門家や監視員による普及啓発などが挙げられる。次に、原因となったキノコの種類（図 5 参照）についてだが、イッポンシメジ及びクサウラベニタケが全体の約 4 割を占め、ツキヨタケとカキシメジが次に多い。なお、イッポンシメジとクサウラベニタケは、鑑別する上で非常に類似しており、食中毒防止の観点から同分類とした。原因施設については、全体の 9 割を家庭が占めており、自己採取、もしくは近所又は親族や友人から譲り受けたキノコを家庭で調理・喫食し発症している事例がほとんどであった（図 6 参照）。採取地に注目すると、都外及び都内がほぼ全体の 3 割ずつを占めており、都外については、山梨県(5 件)、栃木県(4 件)、群馬県(3 件)の順に多く、新潟県と長野県(各 2 件)と続くことから、関東近隣での採取が多いことがわかる。都内については、そのほとんどを八王子市が占めており、当然のことながら都心部よりも山林を含む地域での採取が多いことがわかる（図 7 参照）。しかし、最近では都市開発等の理由からか、以前ほど都内での採取事例はみられていない。

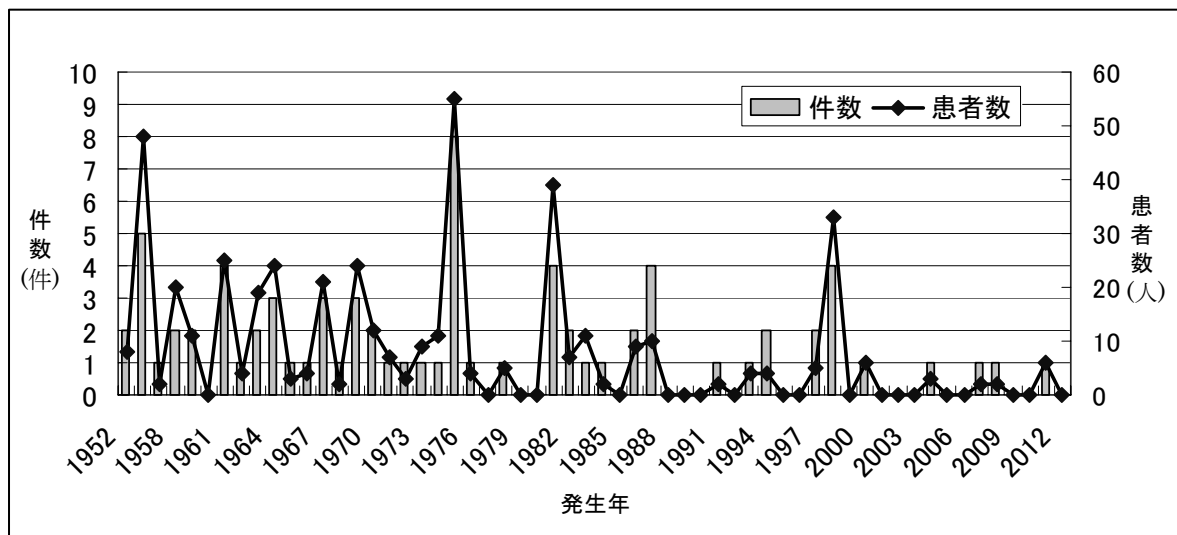


図 4 東京都のキノコ食中毒発生状況

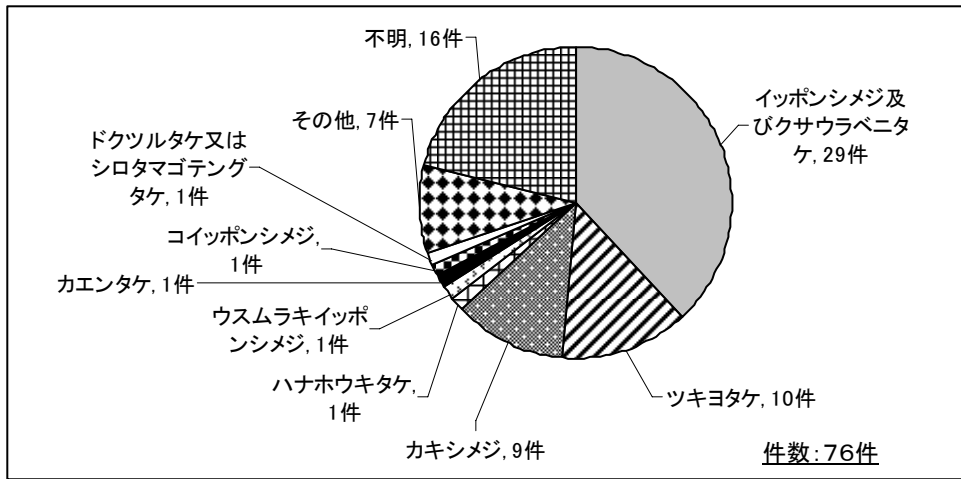


図5 東京都のキノコ食中毒種別発生件数

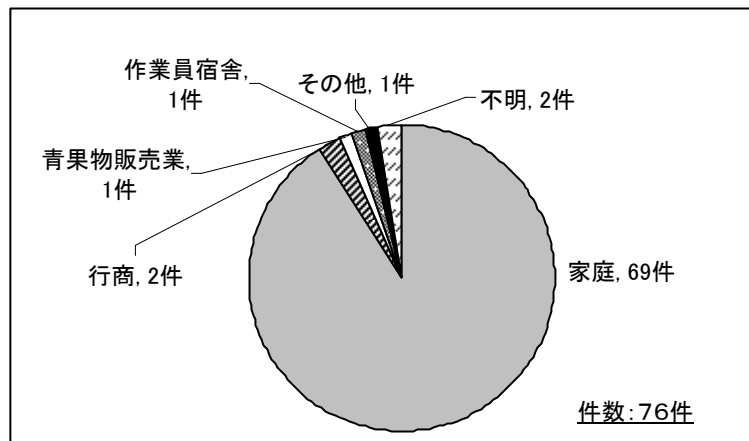


図6 東京都のキノコ食中毒発生場所別発生件数

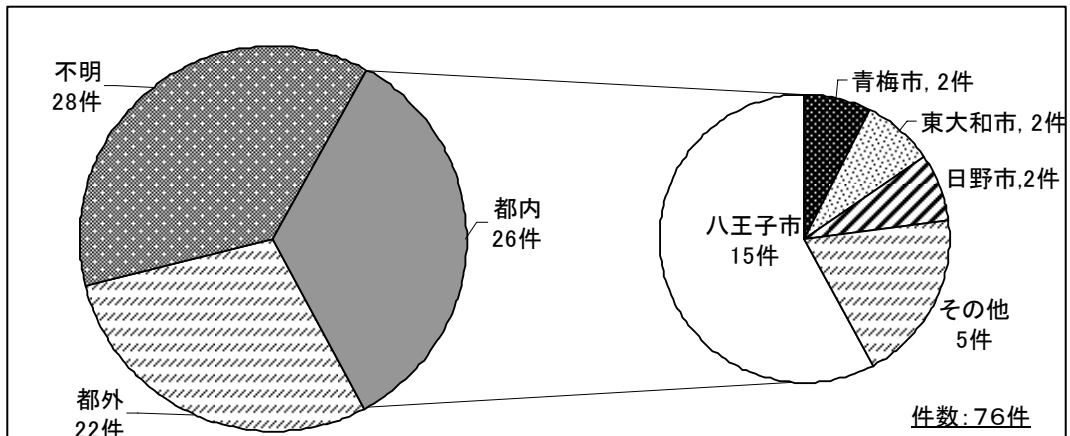


図7 東京都のキノコ食中毒採取地別発生状況

3 都内におけるキノコによる食中毒事例紹介（死亡事例を中心に）

(1) 都内におけるキノコ食中毒による死亡事例（表1 No.12）

発生日：1959年11月14日

患者数/喫食者数：5/5

原因食品：キノコ

原因物質：フウセンタケ科の毛コガサ属（ケコガサタケ属）の一種

発生場所：家庭

(ア) 概要

府中市にて、1959年11月13日に自宅裏の栗の木陰の湿気の多い土の上に生えていたキノコを採取し、同日夕方のうどんつゆに長ネギ、油揚げと共に入れ、家族5名で食べたところ、翌朝8時から11時にかけて全員がおう吐、下痢、発熱、けいれん、食中毒症状を呈した。幼少（12歳）で症状の激しかった子供は17日6時頃に死亡した。

患者宅の裏に残っていたキノコについて鑑定した結果、フウセンタケ科のケコガサタケ属の一種（後の調査にてコレラタケと命名）であることが判明した。都内では、記録のある1951年から現在までに、死亡事例は本件のみである。

(イ) コレラタケについて

コレラタケは、他の毒性のあるキノコと比較して、外観、色、においなどにあまり特徴がみられず、センボンイチメガサ（可食）やナラタケ（可食）などのキノコとよく似ているため注意が必要である。朽ち木、おが屑周辺に10月末から11月中に発生しやすく、食中毒事例は少ない。摂食から発病までの潜伏期間は比較的長く、11～20時間といわれている。症状としては、おう吐、下痢、手足のしびれ、意識障害と重篤になる場合がある。

また、本事件後、1964年10月に金沢で3名、同年11月に長野県で6名中2名、1969年11月に神奈川県で6名中1名が死亡するという事件が起きた。1974年にドクアジロガサと命名されたが、覚えにくく猛毒菌の印象が弱い等の理由から、コレラ様症状と類似し、猛毒であることを印象付ける「コレラタケ」と改名された。

(2) カエントケ（疑い）による食中毒事例（表1 No.67）

発生日：1997年10月5日

患者数/喫食者数：2/6

原因食品：不明

原因物質：不明（カエントケ疑い）

発生場所：家庭

症状

症状	発症数	発症率	症状	発症数	発症率
おう吐	2名	100%	口唇腫脹	1名	50%
下痢	1名	50%	嘔声	1名	50%
発熱	1名	50%	手足の腫脹	1名	50%
頭痛	1名	50%	顔面腫脹	2名	100%
胸痛	2名	100%	咽頭浮腫	1名	50%
眼球血脈充血	1名	50%	呼吸困難	1名	50%

(発症者2名)

※初発症状は、2名共におう吐であった。

(ア) 事件の概要

本件は1997年10月7日14時20分頃、患者の母親から秋川保健所（現：西多摩保健所秋川地域センター）に届出のあったものである。

日の出町在住者が10月5日に青梅市内で自ら採取したキノコを、同日自宅でバター炒めにし、同日17時から17時30分にかけて家族6名で喫食したところ、うち2名が同日18時から20時30分にかけておう吐、下痢等の症状を呈した。

調査の結果、残品のキノコを鑑別したところ、ニクザキン科カエнтаケであることが判明した。しかし、当時カエнтаケによる症例報告はあったものの、その報告内容と本件の症状が異なっていたこと、マウスによる毒性試験の結果、「24時間観察で異常が認めない」との結果であった等から、原因食品、病因物質不明（カエнтаケ疑い）の食中毒として処理された。

その後、1999年10月3日、新潟県の旅館にてカエнтаケをきのこ酒として飲み、さらにその残りを喫食したところ、5名中5名が30分後から腹痛、下痢などの胃腸障害、手足の痺れを呈し、うち1名が喫食二日後に循環器不全、腎不全となり死亡するという事件が発生した。これ以降もカエнтаケを喫食し、発症する事例がいくつか発生し、毒キノコとして認知されるようになった。

(イ) カエнтаケについて

カエнтаケは、夏から秋にかけて、ブナをはじめとした広葉樹林付近に生える。表層に子のう殻という胞子をつくる器官があり、円柱形または平らな円柱状で、上部が枝分かかれし、手指状になる。表面はオレンジ色を帯びており、その内部は白く、固くしまった肉質である。カエнтаケによる症状としては、食後30分程度で腹痛、頭痛、手足のしびれ、おう吐、下痢等の胃腸炎症状と神経症状が生じる。重篤な場合は、その後、腎不全、呼吸器不全、脳障害など全身に症状が現れ死に至ることもある。特徴的な症状としては、粘膜びらん、顔面脱皮、脱毛など体表に症状が出てくることがある。

カエнтаケによる食中毒は、食用とされることがある担子菌ヒダナシタケ類のベニナギナタタケと誤食するケースが多い。この2種のきのこは非常に類似しており、カラー図鑑等のみで鑑別することは困難である。

カエнтаケのベニナギナタタケとの判別方法は、肉質の堅さであり、カエнтаケは堅くしまり、ベニナギナタタケの肉質はやわらかいのが特徴である。しかし、カエнтаケの毒成分は皮膚刺激性が高いため、汁を皮膚に付けないよう注意が必要である。

現在はカエнтаケによる食中毒は各地で発生しており、厚生労働省の自然毒リスクプロファイルにも掲載されている。しかし、キノコの種類は現在も3分の1程度しか把握されていないという。このような新たなキノコにより食中毒を起こすことがあるため、確実な鑑別ができないキノコについては食べないよう注意喚起していくことが重要である。



カエントケ（厚生労働省HPより）



ベニナギナタタケ

4 最後に

キノコの鑑別は専門家でも非常に難しいとされている。その中で、迷信や正確でない知識のもと素人判断での採取、知人からの譲渡等により食用でないキノコを調理・喫食することによりキノコ食中毒は発生する。しかし、残品がなくキノコの鑑別ができない、発症者が1家族のため共通食が多くキノコとの因果関係が立証できない等の理由から食中毒と決定されない場合も少なくない。そのため、実際は統計よりも多くのキノコによる有症事例が発生していると考えられる。さらに、キノコは先にも述べたとおり、種や摂取量によっては症状が重篤となり、最悪の場合は死に至ることもある。

これらを踏まえ、消費者等に対し、確実に食用のキノコと鑑別ができない場合には、「採らない」「食べない」「売らない」「人にあげない」よう、注意喚起をしていくことが最重要である。さらに、キノコはその年ごとに発生する種の傾向が異なるため、誤認の多いキノコやその事例について、その年に応じた情報提供を積極的に実施していくことが必要である。

参考図書：毒きのこ今昔（著者：奥沢康正ら）、日本の毒きのこ（監修：長沢栄史（財）日本きのこセンター）、日本の毒キノコ 150 種（著者：小山昇平）、北陸のきのこ図鑑（著者：池田良幸）、原色日本新菌類図鑑（Ⅰ）（編著者：今関六也、本郷次雄）、原色日本新菌類図鑑（Ⅱ）（編著者：今関六也、本郷次雄）

～未知の毒キノコについて～

1 複数の種類が混在？

クサウラベニタケ(毒)やイッポンシメジ(毒)は同じイッポンシメジ科イッポンシメジ属のキノコで成熟するとヒダが肉色になる等、かなり似ているキノコである。クサウラベニタケやイッポンシメジは食用のウラベニホテイシメジやホンシメジなどと間違えやすく食中毒をおこすことが多い毒キノコである。

クサウラベニタケやイッポンシメジと言われているキノコにも、複数の種類が混在していると指摘がある。小山昇平著の日本の毒キノコ 150 種の中で、クサウラベニタケやイッポンシメジの他、ニセイッポンシメジ(仮称)、アシナガイッポンシメジ(仮称)、ハイイロクサウラベニタケ(仮称)、シミイッポンシメジ(仮称)が示されている。また、池田良幸著の北陸のきのこ図鑑では、クサウラベニタケやイッポンシメジの他、クサウラベニタケモドキ(仮称)、ニセシメジ(仮称)、シミイッポンシメジ(仮称)、ノトウラベニシメジ(仮称)、タカネイッポンシメジ(仮称)、ヒメクサウラベニタケ(仮称)、オキナウラベニタケ(仮称)が示されている。

また、イッポンシメジについては、北陸のきのこ図鑑では、「本種は、市販の図鑑の中に正しい写真や絵が載っているものが少なく、さらに地方名がウラベニホテイシメジをイッポンシメジと称することが多いので、最も混乱している種であろう」と記載されている。このようにイッポンシメジについては、現在まで国内でのはっきりした見解が乏しい種であると考えられる。また、クサウラベニタケやイッポンシメジとされる種にも、これらの種に類似する未知のキノコが含まれているものと考えられ食用キノコとの区別をさらに難しくしている要因となっている。食中毒予防の観点からは、これらを厳密に区別する必要はなく、クサウラベニタケやイッポンシメジ及びそれらに類似するキノコは食べないことが大切である。

2 食経験があっても安全ではない？

平成 16 年にそれまで広く食用とされていたスギヒラタケを、腎機能障害を持った人が食べ、急性脳症を発症する事例が発生した。東北、北陸地方で 59 人が発症し、そのうち 17 名が死亡している。この事例は今まで食べられたきのこでも必ずしも安全とはいえないことを示している。

先に紹介したカエントケのような猛毒のキノコでも、近年までその毒性は不明であった。これらの事例のようにキノコにはまだまだ分からないことも多く、未知の毒キノコが存在することも十分考えられ、野生きのこを食べることはリスクを伴うことを自覚する必要がある。

表1 東京都におけるキノコによる食中毒一覧

番号	発生日	患者数 (人)	喫食者数 (人)	原因食品	原因食品 キノコの種類	原因食品 キノコの種類	誤認した キノコの種類	原因施設	担当保健所	採取地	概要
1	1952/9/28	1	-	イッポンシメジ	イッポンシメジ	イッポンシメジ		-	-	-	-
2	1952/10/12	7	-	ツキヨタケ	ツキヨタケ	ツキヨタケ		-	-	-	-
3	1956/10/3	27	-	イッポンシメジ	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	田無	-	-
4	1956/10/3	6	-	イッポンシメジ	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	南多摩	-	-
5	1956/10/3	7	-	イッポンシメジ	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	八王子	-	-
6	1956/10/7	6	-	イッポンシメジ	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	府中	-	-
7	1956/10/9	2	-	イッポンシメジ	イッポンシメジ	イッポンシメジ		行商	-	-	-
8	1957/10/4	2	-	キノコ酢醤油	ツキヨタケ	ツキヨタケ		家庭	中野区	-	-
9	1958/10/12	9	9	コイッポンシメジ	コイッポンシメジ	コイッポンシメジ		青果物販売業	武蔵野	不明	10月12日、武蔵野市内の八百屋にてキノコを購入し、味噌汁にして喫食した家族5名が、約3時間後からおう吐、下痢症状を呈した。さらに、同日市内の別の八百屋からキノコを購入し喫食した家族4名も同様に発症していた。この2件はいずれも多摩の市場から各八百屋が購入したもので、当該キノコを取り扱った卸業者、仲買人らの知識不足により起きた事故であった。
10	1958/10/23	11	11	ツキヨタケ	ツキヨタケ	ツキヨタケ		家庭	立川	立川市	10月23日、立川市内の住民宅の丸太(ブナ)に野生するキノコ17～8本を採取し、炒め物にして11名で喫食したところ、20分後から全員がおう吐等の症状を呈した。
11	1959/5/25	6	8	キノコ	不明	不明		家庭	町田	町田市	町田市内の住民が、付近の山林から採取したキノコ(通称「ささこ」)をうどんに入れ、5月25日夕食に家族8名で喫食したところ、喫食後4～20時間でおう吐、下痢等の症状を呈した。
12	1959/11/14	5	5	キノコ	ふうせんたけ 科毛こがさ属	ふうせんたけ 科毛こがさ属		家庭	府中	府中市	府中市内の住民が、11月13日に自宅の庭に生えていたキノコを採取し、同日夕食にうどんに入れて家族5名で喫食したところ、食後14～16時間の間に全員がおう吐、下痢、発熱、けいれん等の症状を呈した。幼少で症状の激しかった1名は17日16時半頃死亡した。患者宅に残っていたキノコを鑑定したところ、ふうせんたけ科毛こがさ属の一種であることが判明した。
13	1961/10/18	9	9	キノコ	キノコ	イッポンシメジ属		家庭	町田	不明	町田市内の住民が、親類からもらったハツタケ5本、シメジ400gを10月18日19時頃に炒め物及びきのこ汁とし、家族9名で喫食したところ、喫食後15分から30分で全員がおう吐、下痢等の症状を呈した。きのこ汁の残品を検査したところ、イッポンシメジ属のキノコが混入していたことが判明した。
14	1961/10/23	7	7	キノコ(クサウラベニタケ)	キノコ(クサウラベニタケ)	クサウラベニタケ		家庭	日野	日野市	日野市内の住民が、10月23日に近所の山からキノコを採取し、炒め物にして同日午後7時頃家族5名で喫食したところ、喫食後30分から3時間の間に全員がおう吐症状を呈した。さらに、採取したキノコを別家族にあげていたため、当該キノコを喫食した2名が同様の症状を呈していた。
15	1961/10/25	4	6	キノコ	キノコ	クサウラベニタケ	シメジ	家庭	立川	東大和市	10月25日、患者家族の長女が貯水池付近でシメジと誤ったキノコを7本採取し、ナスとともにすまし汁にして同日19時頃家族6名で喫食したところ、うち4名が喫食後30分から激しいおう吐を呈した。残品のキノコの検査で当該キノコはクサウラベニタケであることが判明した。
16	1961/10/25	5	5	キノコ	キノコ	イッポンシメジ属(推定)		家庭	八王子	八王子市	八王子市内の住民が10月25日に近所の裏山にてキノコ(シメジ)を採取し、知り合いに分けてあげた。キノコ採取者は2名で喫食して異常はなかったが、知り合い家族は25日午後6時頃に当該キノコを煮付けにして5名で喫食したところ、喫食後2～3時間で全員がおう吐、下痢等の症状を呈した。本件は、シメジの中にイッポンシメジ属のキノコが混入していたものと推定された。
17	1962/1/9	4	4	きのこ缶詰(自家用)	不明(スギワケ =スギヒラタケ 疑い)	不明(スギワケ =スギヒラタケ 疑い)		家庭	足立	不明	1月9日午前10時頃、患者の実家から山林でとれる「スギワケ」と称するキノコの水煮缶とホウレン草の味噌汁を家族4名で喫食したところ、10分から30分後に全員が顔面紅潮、胸中苦悶等の症状を呈した。

番号	発生年月日	患者数 (人)	喫食者数 (人)	原因食品	原因食品 キノコの種類	誤認した キノコの種類	原因施設	担当保健所	採取地	概要
18	1963/9/29	13	13	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	シメジ	家庭	八王子	八王子市	患者は9月29日八王子市内の山にてシメジと思いキノコを採取し、自宅のほか2箇所に分配した。各々当該キノコを醤油で煮付けて13名が喫食したところ、全員が発症した。
19	1963/9/29	6	6	きのこ汁	不明		家庭	田無	田無市	9月29日に小平市内の雑木林にて採取したキノコを汁にし、同日夕食18時30分頃そばと一緒に家族6名で喫食したところ、喫食後30分～40分後に全員がおう吐、下痢等の症状を呈した。
20	1964/9/27	2	2	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	シメジ、ネツミタケ	家庭	八王子	八王子市	9月26日と27日に夫婦2名で八王子市内の山にキノコ狩りに行き、シメジとネツミタケを採取し、27日19時頃にキノコ入りの煮込み料理を調理し喫食したところ、喫食後1～2時間後から2名とも食中毒様症状を呈した。
21	1964/10/4	11	11	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	八王子	八王子市	八王子市内の住民が同僚と2名で10月4日朝から、八王子市内にてキノコを採取し、同日の夕食で醤油の煮付けにして喫食したところ、2家族計11名が発症した。
22	1964/10/14	11	12	ツキヨタケ	ツキヨタケ		家庭	荒川区	群馬県	10月12日から13日にかけて、群馬県内の温泉地に社員旅行に出かけた際にキノコを採取し、14日の夕食にすまし汁にして喫食したところ、社員とその家族の計11名が症状を呈した。
23	1965/10/1	3	3	ツキヨタケ	ツキヨタケ	ダイコクシメジ	家庭	田無	群馬県	9月29日に群馬県の山中にて、「ダイコクシメジ」と思いキノコを採取し、10月1日に家族3名ですまし汁にして喫食したところ、30分～1時間後からおう吐等の症状を呈した。
24	1966/10/20	4	4	ハナホウキタケ	ハナホウキタケ		家庭	練馬区	不明	10月20日に新宿区内の市場からハナホウキタケ2kgを購入し、屋敷の煮物中に少々入れ、夕食に約900gを醤油煮で煮て喫食したところ、吐き気、下痢との症状を呈した。ハナホウキタケは、多量に食べると下痢を起こすことがある。
25	1967/9/26	3	3	キノコ(シビレタケ属)	シビレタケ属		家庭	葛飾区	千葉県松戸市	9月25日、松戸市内の山林にてキノコ狩りをし、26日7時30分頃、なすと白菜と一緒に醤油汁として家族3名で喫食したところ、喫食後5分から1時間で全員が口唇部の麻痺、酩酊感等を発症した。患者は生えているキノコを片端から採取した模様で、残品の中にシビレタケ属が混じっていた。
26	1967/10/5	6	6	キノコ	不明(ツキヨタケ疑い)		家庭	文京区	群馬県水上	10月4日、群馬県内の山でキノコ狩りをし、5日朝8時半にキノコ入り味噌汁を喫食した6名が、喫食後30分から40分で食中毒様症状を呈した。
27	1967/10/8	12	13	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	八王子	八王子市	八王子市内の山でキノコを採取し、近所に4家族に配った。当該キノコを喫食した3家族が喫食後1～6時間後に食中毒様症状を呈した。キノコを喫食していない2家族は非発であった。
28	1968/9/23	2	2	クサウラベニタケ、イッポンシメジ	クサウラベニタケ、イッポンシメジ	シメジ	家庭	府中	日野市	9月23日に、友人らでドライブに出かけ、道中日野市内の公園の裏山にてキノコを食用のシメジと思い採取した。同日20時頃患者は自宅にてキノコを煮込みうどんにして喫食したところ、1時間後から下痢、おう吐、腹痛等の症状を呈した。同様に喫食した1名も発症した。
29	1969/10/10	8	8	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	八王子	八王子市	10月10日、自宅付近の山にキノコ狩りに出かけ、採取したキノコを炒め物にし、同日17時頃8名で喫食したところ、19時すぎから全員が下痢、腹痛、おう吐等の症状を呈した。
30	1969/10/12	6	6	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ		家庭	大田区	-	
31	1969/10/13	10	10	キノコ	不明		家庭	立川市	-	
32	1970/10/3	4	4	イッポンシメジ	イッポンシメジ		家庭	五日市	-	

番号	発生日	患者数 (人)	喫食者数 (人)	原因食品	原因食品 キノコの種類	原因食品 キノコの種類	誤認した キノコの種類	原因施設	担当保健所	採取地	概要
33	1970/10/6	8	8	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	シメジ	家庭	小金井	栃木県	10月5日に栃木県内の山林にて約10名がキノコを採取し、自宅にて味噌汁にし喫食したところ、喫食者全員が喫食後2〜3で食中毒様症状を呈した。クサウラベニタケをシメジと誤認しておきた事例である。
34	1971/10/11	7	7	キノコ(カキシメジ)	カキシメジ	カキシメジ		家庭	千住	長野県松本市	10月11日の夕食に足立区内の家族7名がキノコ炊き込みご飯を喫食したところ、2〜4時間後から全員がおう吐、下痢、腹痛等の症状を呈した。キノコは、9日に、長野県内の峠にて、家族の世帯主が自ら採取したものである。採取場所付近では、カキシメジは習慣上食用とされていることをきき、本人はカキシメジであることを承知の上で採取していた。以前もたびたびカキシメジを喫食していたこととあったが、食用シメジの1種であったとも考えられる。
35	1972/10/12	3	3	キノコ入りみそ汁(ツキヨタケ)	ツキヨタケ	ツキヨタケ		家庭	石神井	栃木県	10月12日の夕食に、練馬区内の家族3名がキノコ入り味噌汁を喫食したところ、食後30分〜1時間でおう吐等の症状を呈した。ツキヨタケと鑑定されたキノコは、知人が10日に栃木県内温泉地にて、シメジ、マエタケと思い採取したものを、土産としてもたらしたものであった。
36	1973/10/15	9	9	キノコ(カキシメジ)	カキシメジ	カキシメジ		家庭	府中	福島県会津若松	10月14日、府中市内の住民が友人3名と福島県内へキノコ狩りへ出かけ、採取したキノコを自宅にて友人3名と家族の計6名で15日17時頃喫食し、1〜2時間後に下痢、おう吐等の食中毒様症状を呈していた。更に知人宅へ土産としてあげており、同家族3名も喫食し発症していた。
37	1974/10/8	11	11	キノコ	シメジ又はカラカサタケ属(推定)	シメジ又はカラカサタケ属(推定)		集団給食(作業員宿舎)	八王子	八王子市	発症者は2グループ計11名で、いずれもキノコを入れた煮込みうどんを喫食し、その1〜2時間後に、食中毒様症状を呈していた。キノコは、作業員が八王子市内の幼穂園裏山にて40本採取して宿舎に持ち帰り、うち数本を隣接する宿舎の作業員にあげ、各宿舎にて煮込みうどんを調理したとのことであった。
38	1975/10/10	2	-	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ		家庭	足立	-	-
39	1975/10/13	4	-	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ		家庭	町田	-	-
40	1975/10/19	10	-	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ		家庭	東村山	-	-
41	1975/10/19	13	-	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ		家庭	八王子	八王子市	八王子市内の雑木林にてキノコを採取した13名が、各家庭にて当該キノコを調理喫食したところ、全員がおう吐、下痢、腹痛等の症状を呈した。
42	1975/10/20	9	-	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ		家庭	八王子	-	-
43	1975/10/21	9	-	ツキヨタケ	ツキヨタケ	ツキヨタケ		家庭	府中	-	-
44	1975/10/22	5	-	キノコ	不明	不明		家庭	町田	-	-
45	1975/11/6	3	-	カキシメジ	カキシメジ	カキシメジ		家庭	日野	栃木県芳賀郡	患者らは、隣人からもらったキノコを調理喫食していた。隣人は、栃木県の親戚が付近の山中にて採取したキノコを土産として全部持ち帰り、患者らに渡したとのことだった。
46	1976/10/11	4	4	キノコ	不明(子たまたごてんぐたけ疑い)	不明(子たまたごてんぐたけ疑い)		家庭	立川	東大和市	10月11日14時に市内貯水池西側で、ネズミタケ、ササゴ、シメジ、名称不明の黄色いキノコを採取し、19時頃味噌汁に入れて家族4名で喫食したところ、全員が食後30分でおう吐、下痢、腹痛等の症状を呈した。
47	1978/10/11	5	5	カキシメジ	カキシメジ	カキシメジ		家庭	渋谷	-	-
48	1981/9/23	5	5	キノコ(クサウラベニタケ)	クサウラベニタケ	クサウラベニタケ		家庭	田無	埼玉県飯能市	9月23日、保谷市内でキノコの油炒めを喫食した家族3名が吐き気、おう吐、下痢等の症状を呈した。当該キノコは、知人が埼玉県内の山林で採取し配ったものであり、知人宅でも2名がそばとともに喫食し、同様の症状を呈していた。

番号	発生年月日	患者数 (人)	喫食者数 (人)	原因食品	原因食品 キノコの種類	誤認した キノコの種類	原因施設	担当保健所	採取地	概要
49	1981/9/24	10	10	キノコ(クサウ ラベニタケ)	クサウラベニ タケ	ウラベニホ テイシメジ	家庭	青梅	青梅市	9月24日、青梅市の住民が自宅の裏山でキノコ狩りをし、すまし汁にして喫食したところ、食後30分から1時間ほどで喫食者4名がおう吐、下痢等の症状を呈した。また、この家族からキノコをもらい喫食した3家族6名も同様の症状を呈した。キノコの採取者は、毎年キノコ狩りをしていたが、過去には一度も見誤ったことがなかったとのことであった。
50	1981/9/24	5	5	キノコ(ウスム ラサキイッポン シメジ)	ウスムラサキ イッポンシメジ		家庭	西	埼玉県比 企郡	9月23日に埼玉県内の公園にハイキングへ行き、キノコを採取し、24日に友人を含め5名でキノコご飯にして喫食したところ、食後2～7時間ほどで、おう吐、下痢、手指等の麻痺などの症状を呈した。
51	1981/9/26	19	22	キノコ(クサウ ラベニタケ及 びウスムラサ キイッポンシメ ジ)	クサウラベニ タケ及びウスム ラサキイッポン シメジ		家庭	八王子	八王子市	9月26日、八王子市の住民が自宅近くの山林でキノコ狩りをし、採取したキノコを6家族に配った。採取者宅を含む計7家族22名が各家庭にて当該キノコを喫食したところ、うち19名が同日18時頃からおう吐、下痢等の症状を呈した。キノコの採取者は、20年来自宅近くの山林でキノコを採取していたが、今回は例年の採取地の園圃が夏わり、毒キノコが自生したのに、識別できなかったため発生した事件である。
52	1982/9/27	3	3	キノコ(クサウ ラベニタケ)	クサウラベニ タケ		家庭	八王子	-	
53	1982/10/1	4	4	キノコ(クサウ ラベニタケ)	クサウラベニ タケ		家庭	八王子	-	
54	1983/10/3	11	11	キノコ(カキシ メジ)	カキシメジ		行商	板橋	不明	10月3日の夕方に板橋区の路上にて、野菜類の行商を行っている男性から「シメジ」として販売されていた。当該キノコを購入した4家族計11名が家庭にて調理し喫食したところ、11名全員が喫食後1～3時間にかけておう吐、下痢等の症状を呈した。
55	1984/9/25	2	2	クサウラベニ タケ(推定)	クサウラベニ タケ(推定)		家庭	足立区	栃木県	足立区内在住の夫婦が栃木県の別荘近くの森林からキノコを採取し、9月25日19時ごろ自宅で喫食したところ、10分後からおう吐、下痢等の症状を呈した。
56	1986/10/5	4	4	不明	不明(キノコ疑 い)		家庭	八王子	八王子市 柚木	10月5日夕食事、前日八王子市内の山中で採取した数種のキノコを喫食した4名が、喫食1時間後からおう吐、下痢などの症状を呈した。
57	1986/10/5	5	5	不明	不明(キノコ疑 い)		家庭	八王子	八王子市 内の裏山	10月5日の夕食で、前日八王子市の山中で採取した2種類のキノコをうどんに入れて喫食した5名の家族全員が、1～2時間後から吐き気、おう吐などの症状を呈した。
58	1987/9/24	2	2	不明	不明(キノコ疑 い)		家庭	八王子	知人よ り、イッポ ンシメジ (ウラベニ ホテイシ メジ)をも らった	9月24日、知人からもらったキノコを喫食した2名が、喫食30分後から吐き気、おう吐、下痢等の症状を呈した。
59	1987/9/27	3	3	不明	不明(キノコ疑 い)		家庭	八王子	八王子市	9月27日、自宅近くの山中で採取したキノコを喫食した3名が、約2時間後より吐き気、おう吐等の症状を呈した。
60	1987/9/27	3	3	不明	不明(キノコ疑 い)		家庭	八王子	八王子市	9月27日、八王子市内の山林でキノコを採取し、帰宅後、夕食用にきのこを使った煮込みうどんを作り家族3名で喫食したところ、1時間から2時間半後に3名とも吐き気、おう吐、下痢等の症状を呈した。
61	1987/10/11	2	2	不明	不明(キノコ疑 い)		家庭	八王子	八王子市	10月11日14時ごろ近くの山で採取したキノコを、19時にすまし汁にして家族2名で喫食したところ、1時間後に2名ともおう吐、下痢等の症状を呈していた。
62	1991/10/17	2	2	キノコ	カキシメジ	サマツダケ	家庭	八王子	不明	当該キノコは採取された5種類のうち1種類で、「サマツダケ」と称するものであり、患者はこれをナスと一緒に炒め、味噌汁に入れて2名で喫食したところ、2名とも1～3時間後には吐き気、おう吐、下痢等の症状を呈した。患者はかなりの経験者であったが、判断に誤りがあり事故に至った。

番号	発生日	患者数 (人)	喫食者数 (人)	原因食品	原因食品 キノコの種類	誤認した キノコの種類	原因施設	担当保健所	採取地	概要
63	1993/9/28	4	4	カキシメジ	カキシメジ		家庭	八王子	山梨県富士山4合目付近	患者は親戚Aからもらったキノコを吸い物にして喫食していた。キノコを採取したのは親戚Aの甥であり、甥は鑑別を父親に頼んでいたが、鑑別が済んでいないにもかかわらず、鑑別済みと勘違いしてしまい親戚Aが患者宅に届けてしまった。
64	1994/10/6	1	1	キノコとナスの油炒め	クサウラベニタケ	ウラベニホテイシメジ	家庭	足立区	神奈川県神奈川県の山中にて採取したキノコの一部を譲り受け、キノコ汁にして喫食した。また、患者は当該キノコを別家族に譲っており、キノコ汁として喫食した別家族4名中2名(都外患者)も発症していたとのことであった。	
65	1994/11/13	3	19	キノコ汁	カキシメジ		家庭	日野	山梨県八ヶ岳山麓	10月17、18日に採取、冷凍保存していたものを、知人から貰い受けていた。11月13日13時から家庭にてパーティーを開催しており、その際にキノコ汁を調理していた。キノコ汁には数種類のキノコが含まれており、その中にカキシメジが含まれていた。7家族19名が喫食し、うち3名が13日17時から18時にかけておう吐、下痢、発熱等の症状を呈していた。
66	1997/9/29	3	不明	不明	不明(オシロイシメイジ及びドクツルタケ疑い)		家庭	八王子	八王子市の裏山	患者は夫婦2名と隣家の娘の計3名である。夫婦は自宅裏山で採取した白いキノコ(その後の調査でオシロイシメジと推定)を、9月28日昼から29日朝にかけて3回喫食しており、その後29日午前6時から8時にかけて嘔吐、吐き気、肝機能障害等を呈していた。症状等からオシロイシメジの中に一部ドクツルタケ等のキノコが混入していた可能性が考えられた。娘と知人ら6名に配っていたが、知人らは非発症であった。
67	1997/10/7	2	6	不明	ニクザギン科カエタケ(症状と不一致)		家庭	秋川	青梅市	青梅市内で採取したキノコを、家庭にて油炒めにして喫食したところ、6名中2名が発症した。
68	1998/10/3	14	18	きのこ	オシロイシメジ、ホテイシメジ、ナラタケ等		その他	秋川	山梨県河口湖付近	患者らは、山梨県河口湖付近でキノコを採取し、キャンプ場にて味噌汁、網焼きにして喫食した。食べ残し及び廃棄後のキノコから、オシロイシメジ(毒)、ホテイシメジ(酒と一緒に喫食すると毒)、キイホカサタケ、ナラタケ(生食は毒)、モリノカレバタケが確認された。
69	1998/10/16	15	17	不明	不明(ムラサキシメジ疑い)		家庭	町田	長野県	長野県へキノコ狩りに行き、採取した11種類のキノコを自宅に持ち帰り、17名で鍋料理とホイル焼にして喫食したところ、うち15名が発症した。地元の人から名前を聞いており、その中に生食は毒となる「ムラサキシメジ」と、地元特有の呼び方と思われ、食用適否不明のカサタケ、カラマツコウジが含まれていた。
70	1998/10/20	3	3	焼きキノコ(カキシメジ)	カキシメジ		家庭	板橋区	福島県	福島県の山へキノコ狩りに行き採取したキノコを家庭にて調理し、喫食した。患者らは、食用だけでなく、親費用キノコも採取して持ち帰っており、鑑別に迷ったキノコを含め2種類を焼いて喫食していた。
71	1998/11/7	1	1	不明	不明(スギタケ属(ヌメリスギタケ又はスギタケ)疑い)		家庭	江戸川区	不明	知人からもらったキノコ(スギタケ属)40本ほどをバター炒めにして喫食した。
72	2000/10/16	6	6	ツキヨタケ	ツキヨタケ	かたは	家庭	練馬区	新潟県北魚沼郡	喫食者のうち1人が友人とキノコを採取し、自宅にて16日の夕食にキノコ汁にし6名が喫食したところ、同日21時30分頃から6名が吐き気、おう吐等の症状を呈した。
73	2004/10/18	3	3	クサウラベニタケとナスの油炒め	クサウラベニタケ	ホシシメジ	家庭	港区	都内	患者らは18日の夕食に3名で、17日に都内で採取したキノコ2種類を、キノコとナスの炒め物及びキノコの炊き込みご飯として喫食したところ、3名全員が18日19時30分頃から同日20時にかけておう吐、下痢等を呈した。
74	2007/10/15	2	2	キノコの炒め物	ドクツルタケ又はシロタマゴ子シメジ(推定)		家庭	多摩立川	山梨県(推定)	13日に山梨県奥秩父山中にイワタケ採取にかけた帰りに、舅知らぬ男性から、シロタマゴだから食べても大丈夫と白いキノコを10本譲りうけた。14日19時頃、自宅にて譲り受けたキノコ全量を炒めて2名で喫食したところ、15日2時から4時にかけて2名が下痢、おう吐等の症状を呈し救急搬送された。
75	2008/9/29	2	2	ツキヨタケ	ツキヨタケ	ヒラタケ	家庭	八王子市	山梨県小菅町	きのご採取歴10年の人が9月28日に採取。未熟の黄色の強いツキヨタケでヒラタケと誤認した。29日9時頃、自宅にてキノコの卵とじを食パンに挟んで2名で喫食したところ、同日10時から2名ともおう吐を呈し、救急搬送された。
76	2011/10/17	6	7	ツキヨタケ	ツキヨタケ	ヒラタケ	家庭	練馬区	新潟県六日町	夫の祖父がもらったキノコを、10月17日19時頃自宅にてバター焼き等に調理し、家族5名で喫食したところ、同日21時頃から4名がおう吐等の症状を呈した。当該キノコを同じくもらった祖父の子共夫婦2名も味噌汁にして喫食しており、2名とも発症していた。